



「お城まつり」で、一番町区の雲浜獅子について聞き取り調査をする地域おこし協力隊の川股隊員（広峰神社・5月2日）



遠敷地区ふるさとづくり推進会の仲野實会長（71歳・忠野・左）と地域おこし協力隊の橋本隊員（仲野さん宅「えびね苑」・5月11日）



地域おこし協力隊・文化課
かわまた ひろゆき
川股 寛亨（27歳・岡山県出身）

龍谷大学大学院で儒学や東洋学を専門に学んできた川股隊員。現在も、活動のかたわら、論文の執筆を行っています。小浜の地域おこし協力隊には、大学院の先生から紹介を受けて、申し込みました。4月からは、役所と市立図書館で、小浜に残る古文書の翻刻（原本通り活字におこす作業）に取り組んでいます。「仕事では、貴重な資料を読めるので、やりがいがあります」と、話す川股隊員。「古文書を読み解くことで、知られていなかった歴史や文化について明らかにしたいです」と、意欲をみせます。地域の魅力を聞くと、「研究者の間では、小浜は文化財や民俗芸能の宝庫だと認識されています。わたしもそれを実感しています」と、笑顔をみせました。

小浜は文化財や民俗芸能の宝庫



地域おこし協力隊・農林水産課
はしもと しょう
橋本 翔（28歳・愛知県出身）

愛知出身の橋本隊員は、県立大学小浜キャンパスで学生時代を過ごし、市内のホテルに就職。その後、愛知の実家へ戻りますが、小浜への愛着を捨てきれずに、協力隊にチャレンジ。4月から、葉草の栽培や商品化に取り組んでいます。「自然が美しく、水や食べ物もおいしい小浜は、とても住みやすい環境。ここに帰ってきて、何か地域の役に立てることをしたかったです」と、話します。遠敷地区ふるさとづくり推進会の仲野会長から、忠野区の空き家を紹介されて、4月に移住。自宅横の畑でも、葉草栽培を始めました。仲野会長は、「集落に活気や刺激が生まれる」と、期待を込め、橋本隊員も、「地域の中で自分も楽しめるよう頑張りたいです」と、笑顔で返しました。

地域の中で自分も楽しみたい！

協力隊のお仕事

1年目



文化課
かわまた 隊員

酒井家文庫や順造館関係など、小浜に残る古文書を貴重なものから順番に整理をして、今後、解読を進めていく予定です。

1年目



農林水産課
はしもと 隊員

若狭東高校との連携によるコウギクの栽培をはじめ、各種葉草の栽培や商品化の検討、生産のモデルケース確立に取り組みます。

「地域おこし協力隊」とは

平成21年からはじまった都市地域から地方に生活の拠点を移した人を、地方公共団体が「地域おこし協力隊」として委嘱する制度です。隊員は、一定期間（おおむね1年以上3年以下）、地域に居住して活動を行いながら、定住・定着を図ります。現在、小浜では4人の隊員が活動しています。

【地域協力活動】

- ・ 地域ブランドや地場産品の開発・販売・PRなどの地域おこし支援
- ・ 農林水産業への従事
- ・ 住民の生活支援 など

【協力隊マメ知識】

- ・ 隊員の約4割は女性
- ・ 隊員の約8割が20〜30代
- ・ 任期終了後、約6割が同じ地域に定住

※総務省調。27年3月時点

相澤 「協力隊として赴任した2年前から、加斗地区に住んでいます。木村さんは、早い段階で知り合い、よく一緒に活動しています」

木村 「相澤さんには、行政との「つなぎ役」を担っていただいています。おかげで活動にも幅が出てきました。移住者を放っておくと、地域の中に埋もれてしまいがちです。みんなで顔を合わせる機会に、積極的に誘うことが大切だと思います」

相澤 「加斗に移住した日に、区の常会に参加しました。常会では、皆さんに地域のことを教えてもらっています。人と人との輪をどんどん広げていきたいですね」

右/
地域おこし協力隊・商工観光課
相澤 弘美 (39歳・宮城県出身)

左/
加斗クラブ代表
木村 武史さん (35歳・上加斗)

「地域おこし」って面白い！

木村 「外からの視線を取り入れることで地域がより輝きます。そのためには、移住者を受け入れる心づもりや体制を、あらかじめ整えておくことも大事ですね」

相澤 「協力隊の活動を始めたときは、何か新しいことをしようとしていました。しかし、それだけでは、小浜本来の魅力が埋もれていくことに気がきました。この土地にある宝や魅力、主役である地域のひとと一緒に、内外へ広めるお手伝いをしていきたいです」

木村 「地域住民と協力隊が強く結びつくように、交流する場を作っていきたくいです。行政にも地域に協力隊を送り込んでもらえるような後押しをしてもらえるとうれしいですね」

協力隊のお仕事

3年目



商工観光課
あいざわ 留美 隊員

観光ツアーの企画やアテンド、市外での宣伝活動、移住定住に向けた働きかけ、地域活性化イベントの実施などに取り組んでいます。

2年目



商工観光課
はら 留美 隊員

インバウンド（外国からの訪日観光客）政策の推進や、観光イベントの企画・運営、観光資源の発掘、外部への情報発信もしています。

協力隊と地域との交流を

地域おこし協力隊の皆さんは、全国の自治体の中から小浜を「第二のふるさと」として、任務にとても精力的に取り組んでいます。

本年度からは、観光をはじめ、農業や文化など活動分野も広がり、ますます地域の皆さんと接する機会が多くなってきます。

隊員は、知らない土地に移り住んだばかりで、地域の慣習や生活様式などにも慣れず、顔見知りも少ないなど、まだまだ不安な部分も多いと思います。

地域おこし活動を進めるには、「人とのつながり」は欠かせません。隊員を見かけましたら、ぜひ、気軽に声をかけてください。



人口増未来創造課
さとう よしかず 主査

人を通じて地域とつながる

左/
地域おこし協力隊・商工観光課
はら 留美 (24歳・東京都出身)

右/
劇団「久須夜」団員
はら ありさ
萩原 有紗さん (31歳・高浜町)

萩原 「原さんとは、わたしが所属する小浜の劇団が、去年公演した梅田雲浜の演劇を通して知り合いました」

原 「小浜でお世話になっている人に誘われて、舞台のエキストラで参加したのが、きっかけです。地域になじみたいと思い、思い切って飛び込んだら、皆さん優しく受け入れてくれました」

萩原 「若い人が入ってくれてうれしかったです。今後、色んな視点から活動を盛り上げてもらえると期待しています。協力隊は、地域にそと寄り添ってくれる印象。行政のことにも詳しく、相談もしやすいので、とても親しみがもてます」

原 「人と人とのつながりを重視して活動していきたいです。皆さんとの交流を通して、地域ともつながっていくことを実感しています」

萩原 「協力隊の存在を、もっと多くの人に知ってほしいですね。相談や協力ももらうのに、難しい手続きも必要ありませんし、積極的に活動してくれそうです」

原 「何でも気軽に相談していただけるような、市役所の入口的存在になれるようにがんばります」

萩原 「原さんにも参加してもらって、7月に、地域の文化団体の力を結集した公演を旭座で開催します。皆さんぜひお越しください」

「ASAHI-ZA」
芝居、音楽、ダンス、落語などが繰り広げられるエンターテインメントショー。
とき 7月3日 @ 11時～15時
ところ 旭座(白鬚)
観劇料 2千円